

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900054		
法人名	株式会社 よろこび		
事業所名	グループホーム よろこび		
所在地	〒824-0512 福岡県田川郡大任町大字大行事4125-1 Tel 0947-63-3555		
自己評価作成日	令和02年01月28日	評価結果確定日	令和02年03月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和02年03月09日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園に囲まれた静かな地域で、季節の移り変わりが目に見える環境にあります。入居者様のほとんどが、入居時には立ち上がりや歩行が困難でした。日常生活の中で出来る限り自身の機能を使うような支援していくことで多くの方が身体機能が向上しています。お風呂はリフトを設置しており、浴槽へのまたぎが困難な方でも、ゆっくり湯船に浸かることができ、とても喜んで頂いています。家族との関係性も良好で、日頃より面会も多く、行事や会議には多くの方に参加して頂いています。入居者様、ご家族様、地域の方々からの「ここで良かった」「嬉しい」という言葉がたくさん頂けるような支援に取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山や川、田んぼに囲まれた自然豊かな環境の中に、2ユニット定員18名のグループホーム「よろこび」がある。利用者にとって一番の楽しみである「食」を大切に、利用者の嗜好に配慮しながら職員が交代で作る美味しい料理を提供し、誕生日や季節の行事には手作りの御膳やオードブルでお祝いをして利用者の笑顔に繋げている。月に1度は、利用者の希望に沿った外食やドライブに出かけ、家族を招いてのイベントも多く、楽しく充実した暮らしを、チームワークの良い職員が全力で支援している。日常の生活動作の中で行うリハビリ、できることを活かした自立支援、美味しい食事、職員の優しい関わりで、車椅子使用の方が歩けるようになる等、心身共に向上が見られ、本人、家族の喜びも大きい。各ユニットそれぞれの優れた管理者のリーダーシップの下、明るく人柄の良い職員が定着して質の高い安定した介護サービスを提供し、利用者、家族、地域から大きな信頼が寄せられている、グループホーム「よろこび」である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内3カ所に基本理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。朝礼時に勤務者全員で唱和し、理念に基づいたケアを行うように努めている。	開設当初に職員が考えて作成した、「グループホームよろこび基本理念」を掲示し、毎日の朝礼時に唱和して共有に努めている。職員は、利用者一人ひとりの尊厳を大切に、地域の中で、その人らしく生活できるよう、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加したり、当施設で行う行事には声掛けし、外部より参加して頂いている。	利用者と職員は地域の一員として、地域の行事や活動(清掃活動やチューリップの球根植え)に参加している。地域の病院、美容院、商店を利用することで、日常的な交流に努めている。ホームの行事に地域のボランティアや家族が参加し、年々地域との交流が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時にケアの報告を行っている。又地域の行事への参加・ボランティアの慰問、商店や理容院の利用等にて認知症の人に対する理解を深めてもらうようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回実施。支援内容を報告し、意見や要望を伺い、日々のサービス向上に繋がるようにしている。ご家族様の参加も多く、意見も活発にある為、有意義な会議となっている。	2ヶ月毎に開催する運営推進会議には、複数の家族、民生委員、包括支援センター、役場職員の参加を得ている。利用者の状況、ヒヤリハット、インシデント、事故、活動内容、活動予定を報告し、活発な意見交換が行われている。出された意見はサービスの向上に活かしている。	外部からの参加委員の増員に取り組むことと、薬剤師や歯科衛生士、看護師等、専門職によるミニ勉強会を採り入れる等、内容の充実に向けた取組を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では役場担当者や包括職員も参加し、意見交換している。役場に行く機会も多く、すぐに相談できる関係性がある。	管理者は、役場の担当窓口へ、ホームの空き状況や事故等の報告を行い、疑問点や困難事例等を相談する等、行政と連携を図っている。また、運営推進会議に、役場職員と地域包括支援センター職員の出席を得て、意見や情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、19時以降は玄関施錠しているが、日中は開放している。利用者様が外に出たい時は、一緒に出掛けるようにしている。身体拘束しないようなケアについて日頃より職員会議やヒヤリハット報告時、身体拘束廃止委員会等に見直しを行っている。	内部、外部研修それぞれ1回ずつ、身体拘束についての研修受講の機会があり、禁止行為の確認と意識づけを行っている。また、運営推進会議後に、身体拘束廃止委員会を開催している。(民生委員、包括、役場職員、管理者参加の下、年6回)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づいた内部研修の実施や外部研修への参加を行い、正しい理解と共有を図っている。日頃より入居者様の人権を尊重した対応を心掛け、虐待が発生しない環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで制度を利用した例はないが、今後必要となった時には迅速に対応できるように、日常生活自立支援事業、成年後見制度について資料を用いて研修を行っていききたい。	権利擁護の制度について、資料やパンフレットを用意し、必要時には関係機関と連携を図り、制度活用に向けての支援体制を整えている。現在まで、制度を活用した例はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、管理者が十分な説明を行い、理解・納得をして頂いている。入居後も不明な点があれば相談に応じ説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、意見や要望があった際には、意向に沿うよう努めている。ご家族様には運営推進会議や面会時、受診同行時等でも意見・要望を聞いている。	職員は、日々コミュニケーションを図る中で、利用者の意見や要望を聴き取り、出来る限り意向に沿えるよう努力している。また、家族についても、面会時や運営推進会議、多くのホーム行事に招く中で良い関係を築き、意見、要望、心配な事等を聴き取り、それらを運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は毎月の職員会議で聴取したり、日々管理者が職員より意見を聞くようにしている。必要に応じ毎月の管理者会議や必要に応じて即時に代表者に相談報告し改善努力している。	月1回、9時から1時間半から2時間ほど時間をかけて、全員参加の下、ユニット毎の職員会議を開催している。意見が言いやすい雰囲気の中、活発な意見交換が行われ、提案については、「まずやってみよう」とすぐに実行に移している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、職員と面談を行っている。年に3回勤務評価を行っている。それに基づき、職務状況の把握、就労条件の改善に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢での制限は行っていない。希望する研修や資格取得に向けての支援も行っている。自分から研修参加希望する職員が多い。	管理者は、職員が特技や能力を活かして生き生きと働くことが出来るように、適材適所に役割分担を行っている。外部研修参加や資格取得に向けたバックアップ体制を整え、職員一人ひとりのスキルアップに繋げている。風通しが良く働きやすい環境の中、管理者を中心に職員が一つにまとまり、離職も少ない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	倫理や虐待防止の研修を行っている。ヒヤリハット報告時には即座に対応策を検討し、事故を未然に防ぎ、人権・尊厳を守る対応に努めている。	利用者の人権を守る介護の在り方を、職員会議や研修の中で話し合い、特に、慣れからくる言葉遣いの乱れには注意している。また、毎日理念を唱和することで、改めて、利用者一人ひとりの尊厳を大切にすることを確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月行っている。職員一人ひとりの技術・知識の違いがある為、個々に応じた外部研修に積極的に参加している。外部研修後は職員会議内で他職員に伝達する機会共有している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田川地区介護サービス事業所協議会の定例会や地域の研修会に参加している。できるだけ多くの職員が参加し、交流する機会を持てるように努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や病院に出向き、本人の気持ちを聞いたり、生活している環境を把握するようにしている。又施設に見学に来てもらい雰囲気を感じて頂くようにしている。ご家族様や関係者にも様子を伺い情報を集め、入居後スムーズに施設での生活に慣れて頂けるよう環境整備を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族様と話す機会を多く持ち、ご家族様の不安や意向をしっかりと聞くようにしている。入居後は来所時や必要によっては電話にて、生活状況を伝えている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前よりご本人様、ご家族様、職員が話し合い、ニーズに基づいた支援内容を検討し、サービスの提供が出来るように努めている。入居後に気付いた事があれば、すぐに支援内容の見直しを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話を大切に、何を思い、感じているかを考えながら接している。何でも言える関係性を築けるように努力している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様面会時には一緒に体操やレクに参加して頂いたり、行事に参加して頂いたり、病院受診や買い物に付き添うなど、一緒にご本人を支えていくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の知人が来られたり、馴染みの商店や美容院に出かけたりしている。又住んでいた地区の祭りの準備に出かけたりしている。	利用者の友人や近所の方の面会時には、ゆっくり話が出来る環境を整え、また、来ていただけるよう声を掛けている。自宅への一時帰宅や馴染みの商店に出かける等、利用者が長年築いてきた人間関係や地域社会との関わりがホーム入居によって途切れないよう、支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝礼や職員会議の際に利用者様同士の関係性を把握し、相性を考慮しトラブルにならないよう配慮している。利用者様同士で声を掛け合い、一緒にお手伝いをしたり、レクや体操を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者のご家族様とは連絡を取り合っている。来所して頂く事もあり、関係継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、利用者様の思いや気持ちの把握に努めている。意思表示が難しい場合には表情や動作で気持ちを汲み取るように努めている。又ご家族様とも相談し、その人らしい生活が出来る様に支援している。	職員は、日々の関わり中で利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報を共有し、思いの実現に向けて努力している。意思の疎通が困難な利用者については、家族に相談したり職員間で話し合い、利用者の表情を見ながら思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より生活歴を利用者様・ご家族様・関係者等から聞き取りを行い情報収集し、入居に至るまでの経過を把握するようにしている。入居後は日々の会話の中から生活歴を把握するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の望む生活を尊重し、日々少しでも変化や気づきがあれば記録し、申し送り等で職員間の情報共有を図っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議にて個々の課題を話し合っている。計画に沿ったモニタリングを介護職員も毎月行っている。又面会時に家族からも意向を伺ったり、医療関係者からのアドバイス等を反映させ介護計画を作成している。	利用者、家族の意向を聴き取り、月1回の職員会議の中で利用者一人ひとりの課題について話し合い、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。モニタリングを毎月実施し、利用者の状態が変わった時には、その都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録を行うよう努力している。日々、状況の変化を職員間で情報共有し、計画見直しに反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況の変化を把握し、職員でその都度話し合いをし、その時々に必要なケアを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加や地域の商店等に行くなどの外出する機会を作っている。当施設の行事にも参加・協力いただき、生活の様子を見て頂く機会がある。笑顔が多くなるよう支援に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者が入居前にかかっていた病院に現在も受診している。ご家族様が同行される場合もあり、受診時に心身状態報告し、ご家族様も納得の上で、適切な医療が受けられるよう主治医と連携を行っている。	入居時に、利用者や家族の希望を聴いて主治医を決めている。全員が、入居前からのそれぞれのかかりつけ医を受診している。家族と協力しながら受診支援を行い、情報の共有に努めている。訪問看護、訪問歯科とも連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護による体調管理を行っている。緊急時や相談時には常時対応してもらっている。相談しやすい関係であり、連携が取れている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者に早急に情報提供が行えるよう、入院時にご家族様と共に病院に行き、主治医・担当看護師・ソーシャルワーカー等と面談している。早期退院と円滑な受け入れが行えるよう、頻りに訪問したり、電話による近況報告を受けたりしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針の作成、急変時及び終末期における医療や介護に関する事前調査書での意思確認をおこなうようにしている。終末期にはチーム支援を行えるよう体制作りに取り組んでいる。	契約時に指針を基に、重度化、終末期に向けた方針について説明し、利用者や家族の希望を聞いている。利用者の重度化に伴い、家族と密に連携し、主治医も交えて方針を確認し、関係者で方針を共有して、安心して終末期を過ごせる支援体制を整えている。各ユニット1名の看取りを経験している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応についての研修を行っている。又、日頃少しでも体調変化が見られた場合には、急変時の対応について検討している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	外出を利用し、避難誘導訓練を行っている。2018年7月には近くを流れる川が増水したため、向かいの施設に一晚避難した。日頃より行政の方とも情報交換をしているが、今後は更に地域の方とも協力体制を築くよう努めたい。	大雨や台風、河川氾濫、夜間、地震等、想定を変え、外出のタイミングを利用して避難誘導訓練を行っている。特に、近くに川があるため、増水の際には、近隣施設への避難の経験もあり、日頃から地域の消防団や行政と情報交換に努めている。また、災害時に備えて備蓄も行っている。	夜間、職員がユニットに1名の体制を想定した訓練を繰り返し行い、非常時に慌てずに行動できるような取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念の基に人権やプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。日頃より個々に応じたその時々言葉かけなど職員間で話し合い、対応をしている。	利用者の人権を守る介護サービスについて、職員間で常に話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮した言葉遣いや対応を心掛けている。排泄や入浴の場面では特に注意し、利用者のプライドや羞恥心を大切に支援に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持ち、個々の思いを理解するように努めている。言葉が上手に出ない方には「はい」「いいえ」で応えられるように問いかけたり、表情を見て思いを汲み取るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や心身の状態に応じ、その時々したい事を尋ね、希望に沿えるように支援している。言葉に出せない方には表情や動作を見て、接している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる方は自分で選んでいる。自分で選べない方はTPOに合わせた洋服に着替えている。お化粧品が好きだった方には外出や行事の時に化粧品をして頂いている。希望時には散髪に連れていったり、美容院に来て頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を一緒に考えたり、旬の物をメニューに取り入れている。下準備や下膳の協力をして頂く事もある。鍋や鉄板を使った料理と一緒に食べ、家庭的な雰囲気での食事をして頂く機会を作っている。行事の際にはご家族様と一緒に食事をしたり、飲食店に協力して頂き外食する機会を作っている。	利用者の嗜好に配慮し、地元の新鮮な食材を使って、職員が交代で作る美味しい料理を提供し、昼食は職員も同じ料理と一緒に食べている。誕生日や行事の時には手作りのご馳走が並び、家族も招いて一緒に楽しんでいる。また、外食にも気軽に外かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事量や形態に配慮している。バランスの良い食事となるよう献立を作成し、使用した食材を記録している。水分量のチェックも行い管理している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科やかかりつけの歯科医に個々に応じたケアのアドバイスを受けている。毎食後、個々に応じ、歯間ブラシやスポンジ・口腔ケアウェットティ等を使い口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。入居時昼夜おむつを使用していた方がトイレで排泄することで、おむつ使用料が減った方がいる。	重度化してもトイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者の排泄パターンを把握して声掛けや誘導を行っている。夜間も利用者の希望を聴きながら、出来るだけトイレ誘導を行い、排泄の自立支援とオムツ使用の軽減にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多めの食事提供に心掛けている。水分量もチェックし適度な水分を摂って頂くよう支援している。便秘傾向の方は主治医や訪問看護師と相談し、下剤の調整を行うこともある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴している。本人の希望の時間帯に合わせて、毎回時間調整している。現在6名がリフト浴を行っており、ゆっくり湯船に浸かることが出来ている。	入浴は、利用者の希望、体調に配慮しながら、週3回実施している。リフト浴を設置し、重度化しても安全に入浴出来る支援体制が整っている。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員が交代して声掛けし、清拭や足浴も取り入れながら、支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、居室やソファで休息できるようにしている。夜間不眠の場合は、日中の過ごし方について、朝礼や職員会議時に検討し、支援に取り入れている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳をいつでも確認できるように事務所に設置している。薬の追加や変更時は薬効・副作用・用法・用量等を申し送り簿に記載し情報共有している。薬チェックリストを活用し、投薬間違いがないように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好を考慮し、状態に応じた活動を行う様にしている。ご家族様の協力も多く、楽しく過ごせるようにご家族様と一緒に考え、支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃はいつでも散歩や買い物に行きたい等要望がある時は、すぐに対応するよう努めている。利用者様全員での外食や花見等で外出する機会を作っている。又、ご家族様の協力で外出をされる方もいる。	敷地内をぐるりと散歩したり、外に出ておやつを食べたり、利用者の希望を聴きながら買い物に出かける等、気分転換を図っている。季節毎の花見や「美味しいもの食べに行こう」と思いつきで外出したり、気候や体調を見て積極的に外出している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己所持希望の方は、自己にて所有し、病院代・買い物支払いを自分でできるよう支援している。ご家族様が財布にお金を補充する際には、必ず財布内にお金がいくら入っているか報告して頂き、お金を使った際には領収書をご家族様に渡し、使途不明金がないようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1名が携帯電話を所持し使用している。電話を掛けてほしいと希望される方には、都度職員が電話を掛けて話をしてもらったり、利用者様に代わり用件を伝達している。本人宛の手紙が届いた時には本人に手渡ししたり、代読している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子の方が多く、常に整理整頓を心掛けている。オープンキッチンからはフロアが見渡せ、食事を作る音やにおいで生活感を感じることが出来る。毎月季節に応じた掲示物を利用者様と一緒に作成し掲示している。	室内には、利用者と一緒に作成した貼り絵の壁画や季節に合わせた掲示物を飾っている。オープンキッチンからは、食事作りの音や美味しそうな匂いが漂い、家庭的な雰囲気である。天井からの採光で室内は明るく、掃除も行き届いた、居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの食堂やテレビ前のソファ、自室にて自由に過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・ご家族様から意向を聞き、馴染みの物を持ち込んで頂くようお願いしている。本人・ご家族様の希望で模様替えをすることもある。	利用者が使っていた鏡台や思い出のある人形、仏壇等、馴染みの物を持ち込んでもらっている。自身で作られたパッチワークの作品を飾り、「自分の部屋になった」と喜ばれている。好みのものを置くことで、安心して過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の部屋扉には手作りの表札をつけ、トイレなども分かるように表示している。車椅子を自走する方がいる為、動線上に物を置かないようにしている。		